

山本周五郎 原作
橋本英治 演出・脚色

おたふく物語



神谷市兵衛
小佐川源次郎



鶴村仁左衛門
嵐圭史



貞二郎
益城宏



栄二
武井茂



おたか
浜名実貴



おしず
今村文美



お夏
有田佳代



宗吉
新村宗二郎



目明し銀次
高橋佑一郎



おその
西川かずこ



絹女
前園恵子



おてつ
田中世津子



爺々が茶屋の弥助
津田恵一

前進座上演の周五郎作品 (17本)

保本登 高橋佑一郎
新出去定 嵐圭史



『あひげ』

幸太 武井茂
おせん いまむらいつみ



『柳橋物語』

栄二 益城宏
おすえ 今村文美
さぶ 中嶋宏幸



『きんぎょ』

おぶん 田中世津子
おひろ いまむらいつみ



『つゆのひぬま』

『こんち午の日』『季節のない街』
『ながい坂』『雨あがる』『扇野』
『あすなろう』『梅咲きぬ』『夜の辛夷』
『わたくしです物語』『青べか物語』
『深川安楽亭』『かあちゃん』
『地蔵〜イカサマ地蔵騒動譚〜』

ものがたり

江戸下町に、ひっそりと生きる、ちよつと頓馬で愛嬌のあるおしず（今村文美）と、しっかり者で姉想いのおたか（浜名実貴）の美しい姉妹がいた。

おしずは自分のことを、おたふくと言うのだが――。

二人は周りの心配をよそに、何故か嫁ぐ気配が無い。そこへ、親しい間柄の生花の師匠・絹女から、おたかに縁談が持ちかけられる。が、二人が結婚を諦めていたのは、実は江戸払いになっている兄・栄二のことがあったのである。しかし、この縁談におしずは、今度ばかりはと、一世一代（？）の計を案ずるのであった。

「ねえ、たかちゃん！ 実は私にも思っている人がいるの。あなたがお嫁に行ってくれないと、私……」

妹想い、姉想いの麗しい二人の愛の行方は……。

『おたふく物語』の原作は、三篇「おたふく」（一九四九）・「妹の縁談」（一九五〇）・「湯治」（一九五一）のシリーズとして発表されたもので、一九五五年、一括して『おたふく物語』として収録されました。（ハルキ文庫 他所収）

2012年 10月 28日(日)・29日(月)



中日劇場
CHUNICHI THEATRE

〒460-0008 名古屋市中区栄4-1-1 中日ビル9F

	28日(日)	29日(月)
午前	11:00	11:00
午後	16:00	

【ご観劇料金】A席 9,500円 B席 5,000円 C席 3,000円

（お問合せ・お申込み）前進座名古屋営業所

〒464-0075 名古屋市中千種区内山3-1-8 コヤソオフィスビル 3F

TEL 052(731)7751 FAX 052(731)4311